

「自然づくり・環境づくり・人づくり」 サマーチャレンジ 2015

川ある～き調査隊 調査結果

期日	2015年8月8日(土) 8:30～		
場所	日川 (ぶどう橋周辺)		
気温	34℃		
水温	21.5℃		
隊長	保坂 一仁 教育長		
講師	長田 義己 氏 (山梨動物生態研究会) 北村 眞一 氏 (山梨大学教授)		
参加者	児童 44名	保護者 25名	スタッフ 41名 計 110名

1. 水質調査

1-1. 調査方法

パックテスト(簡易水質調査キット)による検査方法を用いる。

もっとも簡単な水質測定器であり、多くのパックテストの反応原理は JIS K 0102 などの各種公定法内の吸光光度法を応用している。

化学的酸素消費量 (COD)

海水や河川の有機汚濁物質等による汚れの度合いを表す数値で、水中に有機物などの物質がどれくらい含まれるかを、過マンガン酸カリウムなど酸化剤の消費量を酸素の量に換算して示される。CODの数値が高いほど水中の汚染物質の量も多いということを示す。魚がすめる河川の水のCODは5mg/l以下とされる。

COD値 (mg/l)	0	1以下	2～5	5～10	10以上
汚染の目安	きれいな水	きれいな 溪流	汚染がある	汚染が多い	汚れた水

1-2. 調査結果

パックテストの結果(表1)、日川は良好な水質であり、透明度も高いため非常に澄んだ水と言える。

表 1. 日川の水質調査結果

項目	数 値	備 考
COD	0~2mg/l	
透視度	100cm 以上	

2. 生物調査

2-1. 調査方法

ガサガサによる捕獲を行う。ガサガサとは、生物がいそうな場所の下流側にタモ網を川岸に垂直になるように置き、上流側から足でガサガサと魚をタモ網へ追い込む方法のことである。

2-2. 調査結果

14 種類 322 匹の生物を捕獲することができた(表 2)。山の生き物や川の生き物が混在している環境であり、多様な生物がすむ、きれいな水といえる。

表 2. 日川で捕獲した生物

名前	数 (匹)	写真	コメント
ヒゲナガカワトビケラ	41		流れの速い早瀬の礫や小石の間隙に固着巣を作り、糸で巣をはって生活する。
カジカ	62		きれいな川にしか住めない。ふるさとの溪流を代表する魚。種類によっては絶滅危惧種あり。
アブラハヤ	68		地区によって名前の違う。触ったときにぬるぬるするのでアブラハヤと呼ばれる。
コオニヤンマのヤゴ	6		天敵から身を守るために、落ち葉に扮した見た目をしている。

コヤマトンボのヤゴ	15		楕円形で平べったく、脚が長い。丘陵地や低山地の河川で見られる。
ヘビトンボ	6		川底は良い環境にしかない。この川みたいにかいりいな川にる。
ナベブタムシ	67		河川清流域の川底の細礫の中に潜っている。容存酸素量の多い平瀬に多く生息する。
ミヤマカワトンボのヤゴ	11		成虫であるトンボの形に近く、おなかの先っぽにはうすくて長い3本の尾がある。
サナエトンボのヤゴ	14		扁平で紡錘形に近い形で、足はあまり長くない。あまり活発に泳ぐようなものはなく、多くは水底の泥や砂に潜る。
サワガニ	8		カニの中で海にいかないカニ。メスとオスの見分けが出来る。
カワニナ	19		農薬や合成洗剤などが流れ込んでいないこと、溶存酸素量が多いことなどの条件で生息可能。
ガガンボ	1		蚊を大きくしたような見た目だが、吸血することは無く、とても貧弱。

オニヤンマ	2		本日に生息するトンボ類の中で最大の種類。成熟した個体は複眼が光沢の強い緑色。
モンカゲロウ	2		体は細長く円筒形で軟弱。鰓は7対あって、背上で互いに触れ合いふさふさとしている。

3. まとめ

日川は多様な生物が混在できる非常にきれいな川であり、甲州市の大切な財産であることを再認識できた。子供たちも目を輝かせながら講師の話を聞いて、笑顔溢れるイベントとなった。

